

指定認知症対応型生活介護事業者自己評価表

事業者名	グループホーム「そよかぜ」岩内	評価実施年月日	平成18年8月30日
評価実施構成員 氏名(介護員)	施設長宮腰勇・管理者石田美由紀・主任大坂健太 高村邦子・河野美津子・橋田美幸・村田真樹子・宮崎靖子		
記録者氏名	管理者 石田 美由紀	記録年月日	平成18年9月1日

北海道保険福祉部介護保険課(平成18年8月版)

認知症高齢者グループホームの自己評価表

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた町、住み慣れた地域、高齢であっても安らぎと喜びのある日々を、その人らしく過ごして頂きたい。という地域で暮らす大切さを大事にした理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内の何箇所かに理念を掲示して、いつも理念を意識しながらケアを行うように努めている。		全スタッフが理念に沿ったケアを行うよう、日々心掛けている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会で地域との関わりについて毎回協議し、町内会、地域の行事に積極的に参加することで、少しずつではあるが地域の人達にも理解を得てきているように感じる。	○	これからも地域の人達との交流を深め、そよかぜの理念をより理解していただけるよう努めていきたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	今年度は玄関先にベンチを設置し、どなたでも気軽に休憩などをしていただけるように工夫した。	○	隣近所の方とは気軽に声を掛け合っているが、立ち寄っては頂けていないので、より努力をしなければいけないと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	オルガン演奏、お手玉の会、二胡の演奏会など定期的にボランティアさんに来て頂き、町内会、敬老会、地域の行事に参加して交流している。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内のクリーンアップ運動、介護の集い、介護劇などに参加している。微力ながら地域へ貢献できている。	○	可能であれば、町内会の行事手作り市への出展も検討したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全スタッフで会議をして自己評価を行った。スタッフ同士の意見交換にもなり、今までのケアやこれからのケアについても見直すことができた。改善点については早急に対応していきたい。	○	評価項目以外にも改善が必要な物については早急に対応できるように努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では委員の方と有意義な意見交換ができており、意見やアドバイスを頂き、運営やケアに役立っている。	○	これからも外部の方の新鮮な目線で意見を頂き、ただの会議で終わらせぬように努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	各種申請、手続き、介護の集いで町職員の方と交流し話し合いをしている。	○	これからも気軽に相談や助言を頂けるような、関係を作っていくたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今現在、必要とする利用者さんはいなかったが、必要となれば対応できる知識を有している。	○	定期的に職員会議、勉強会でも話題にしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	常に虐待について話し合いを持ち、人事ではないという危機感を持ちながらケアをしている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約については施設長、管理者が行い充分な時間をかけて同意を得ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する説明と納得 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の不満、利用者間のトラブルなどがあればすぐに個別に話しを聞き解決できるよう、対応している。職員会議、ケア会議でも議題にして話し合っている。		利用者の不満なども解決できるようアセスメントを行いケアプランに反映させている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月「そよかぜ便り」を発行し、生活状況や、外出の報告をしている。金銭出納帳も毎月家族へ送付し、お金の出し入れを報告している。その他、利用者の体調が悪くなったり、受診結果に変化があれば、電話連絡するなどしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置し、家族会、面会時などに会話等で、確認している。苦情があった場合には、苦情処理受付表に記録を残し、会議で全スタッフで話し合い解決している。	○	家族が気軽に苦情や不満を言えるような関係を作っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長、管理者は会議の他にも職員の意見を聞き、可能なものは反映してくれている。		職場の雰囲気がとても良いため気軽に意見を言いやすい環境になっている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に合わせて、勤務人数を増やしたり、時間帯を変更するなど対応できている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動はほとんどないが、あった場合には早く馴染めるように、周りの職員がフォローしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	できるだけ外部の研修には、全職員が順番でいけるように管理者が調整し、計画を立てている。その後、会議で研修報告会を行っている。		全スタッフが年間、最低2～3回は研修へ参加できている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同町内にはグループホームはなく、交流の機会は少ないが、近隣の町村と時々、見学などで交流を図っている。一昨年には、他施設と相互訪問交流を行った。	○	近隣町村のグループホームと定期的に意見交換などができる組織作りが必要と思われる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者との交流は少ないが、年に1回は機会を設けてくれている。管理者は定期的に機会を設けてくれており、その場で職員はストレス発散できている。	○	運営者と職員が交流する機会を増やしてほしい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。	運営者には実績、勤務状況は報告しているのみであるが、管理者は職員が楽しく働けるような環境を作っている。	○	運営者が昨年より現場に来てくれる回数は増えている。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に面談を行い入居に対して不安を減らすように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族との話し合いの時間を持ち、本人のいない所で聞いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援			
	相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	帰宅願望のある利用者には家族と相談し、たまには家で過ごせるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービスの利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人にも納得してもらい入居して頂いているが忘れてしまい混乱が見られる場合はその都度説明したり、家族に面会に来てもらえるようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者にフキの煮方や昔ながらの梅酒の作り方を教えてもらいながら一緒に行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報を共有し家族と共に本人を支えていくように努めている。	○	これからも家族に何でも気軽に相談してもらえるような職員になっていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との今までの関係や自宅での暮らし方を把握することで、双方に負担を掛けないようなケアを行っている。	○	本人、家族との交流を深め、互いの良い関係が継続できるよう努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容室の利用は勿論、昔からの趣味の会合への参加を継続してもらっている。その他、知人の面会があった場合は、「また、来て下さいね」と必ず声を掛けるようにしている。	○	関係が途切れてしまわないように、職員の小さな配慮、気配りを忘れずに行っていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。	食事、コーヒータイム、おやつ時間などは出来るだけ共有スペースで過ごして頂くことにより、入居者同士の会話も自然にあり、職員が間を取り持つこともある。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後の利用者さんや家族からの手紙も頂いており、職員が転居先に会いに行くこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に会話する時間を持ち本人の意向を聞きだすようにしており、意思疎通が困難な方や、自分の気持ちを言えない方にはその方が今何をしたいのか、何を求めているのかを家族を交えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に調査し個別の記録に残している。入居後も本人、家族に詳しく聞きケアに反映させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入所後すぐにセンター方式の24時間シートを活用して、利用者の生活リズムを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員の監督の下、職員が各担当者を持ちアセスメント、介護計画を作成している。その後、ケア会議を行い全職員で検討している。本人、家族の想いを組み入れた計画を作成している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本、1ヶ月に一度見直しを行い、ケア会議を行う。その他、各担当者から緊急に相談等があればその都度、臨時会議を行い見直しをしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録として個別に記入し、その中にケアプランのチェック項目もあるため、日々の様子やケア内容を連動して記入し把握できている。		介護記録に詳しくケア内容を記入することにより、介護計画を見直す際には評価しやすくなっている。その他バイタルチェックシートも毎日記録に残している。
3. 多機能を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能を活かした柔軟な支援をしている。	各種申請や手続きなどはほとんど当ホームで行い、生活保護費の受け取りや支払い等も行っている。通院、往診など状況に合わせて行っている。管理者はキャラバンメイトの講師や、職員は町が主催の認知症介護劇に参加するなど行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関と協力しながら支援している。	民生委員の方とは運営推進会議で交流を持ち、ボランティアの方にはオルガン演奏やお手玉の会として月に1～2回訪問して頂き、消防には避難訓練で年に2回は協力を得ている。	○	警察との接点、交流が無い場合今後こちらからアプローチして行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町の公共温泉の利用や、町の行事で健康チェックなどに参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	管理者はセンターの役員になっており、連絡を取りあえる体制はある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	東山クリニックの往診が週に2回の利用者と月に2回の利用者もいるため、医師、看護師は充分に利用者のことを把握していて、緊急時なども対応してくれている。		町外の受診でも家族の希望や緊急時には職員が同行することもある。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協会病院の精神科の医師には相談など出来ている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当ホームには看護職はいないが、東山クリニックの看護師さんとは気軽に相談で関係である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した利用者には入院先が町外であっても職員は交代でお見舞いに行き状態の把握に努め。病院側とのカンファレンスには家族と共に参加させていただき、退院後のケアに反映させている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	可能な限り本人、家族の希望、意見を尊重して、医師との連携をとり当ホームでの方針を全職員で話し合い行っている。急変時にも医師に連絡出来る体制はとれていた。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	当ホームには看護職はいないため、医療行為が必要になった時はホームでの生活が出来なくなるなど家族に説明し了承を得ている。ターミナルケアが出来る場合は全職員の意見を聞き、方針を決めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	今までの生活を継続できるよう、添書を作成し、転居先関係者に渡し、これからの生活に役立ててもらえるよう支援している。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の性格、生活歴に合わせた声掛けをするように改善し、さりげない優しい対応を行っている。記録についても他者のプライベートなことは記入せず。口外もしないよう努めている。	○	これからも、会議や勉強会などで個々に合わせた声掛けや対応について協議していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。	理解しにくい言葉や長々とした説明はせず、職員側が決めてしまうような声掛けはしないよう努めている。決定は本人に任せている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活のペースを尊重し、起床、就寝の時間なども決めていない。散歩や買い物なども柔軟に対応出来ている。入浴に関しては夜間は職員が少ないため夜の入浴は行っていない。	○	可能な限り本人の希望を叶えてあげたい。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝、夜の着替えは基本的には自分でやっているが、援助や見守りが必要な方には支援している。行事の時には女性職員が衣装を選んだり、化粧を行っている。美容院は本人が希望する所へ行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や片付けをしている。	食事作りには皆さん積極的には参加はしないが、後片付けには参加している。職員も利用者と一緒に同じテーブルで食べているので食事前後、共有する時間が長くとれている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居前に本人、家族に確認して支援している。現在タバコを吸う方はいないが以前は喫煙所を設置し、スタッフの見守りにて吸って頂いていた、タバコは詰所で管理。飲酒について、特に決まりはないが、主に行事の時などにホーム側で購入し飲んでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿、排便チェックを行い、時間や回数を記録している。尿意や便意のない方でも本人より訴えがある場合は便器にて排泄できるよう支援している。		当ホームは出来るだけオムツは使用せず、パンツにパットで対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日はホーム側で決めているが、時間や順番などは本人の希望に合わせている。異性の職員が入浴介助を行うのを嫌がる時には、同姓の職員がおこなうなど対応出来ている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床時間や消灯時間の決まりはなく、本人の生活習慣に合わせている。眠れない方がいる場合は職員が添い寝したりとその都度対応出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	漬物作りや裁縫など得意分野で活躍できるように配慮し、個々の趣味なども支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で管理している利用者もいるが、管理出来ない方はホームで管理しているが買い物や受診の際に支払いをして頂くなどの支援をしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月に1～2回行事を企画して、町内の回轉寿司や郷土館、などに外出している。天候に合わせて散歩や地域の行事にも参加している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と行く機会は少ないが、勤務職員が多い日などに、個別対応で喫茶店や食堂、美術館などに外出している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族の事が気になって仕方がない時などには「娘さんに電話してみようか?」と声を掛け、希望があればダイヤルするなど支援している。		希望時には電話機の貸し出しや、取次ぎを行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間はきめずに希望の場所で談話して頂き、面会者にはお茶を出してくつろいで頂けるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修に参加したり、勉強会などでも話題にして共有意識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の防犯以外施錠はしていない。一人で外出してしまう利用者さんがいるのでスタッフが気づきやすいようにのれんに鈴を付けて工夫をしているが、危険がない限り、後ろから見守るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者の所在が確認できるよう、職員間で情報を確認しながらケアにあたっている。居室で過ごす時間が長い方にはさりげなく訪問し確認している。		夜間は巡回時間を決めて確認しているが、その時間外にも常に意識している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	台所の刃物類は夜間のみ所定の位置に保管している。洗濯場の洗剤については目隠しする程度である。利用者、個人で刃物や薬を管理している方もいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員間で個人に合わせた危険因子を話し合い、日々の見守りや、支援、介護計画に役立っている。事が起こった場合にはヒヤリハットへ記録し再発防止に努めている。		転倒の危険がある方にはスリッパではなく靴タイプを使用して頂き、誤薬予防には、スタッフ3名で確認、窒息は常時見守り、行方不明予防にはのれんに鈴をつけている。火災には独自のチェック項目を作り職員が毎日点検している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防の普通救命講習を受講しており、来年にもう一度受けるよていである。独自でマニュアルも作成し、連絡体制も整えている。		今年は、ホーム前で倒れていた人を職員が助けたこともある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時には協力して頂けるように運営推進会議や町内会をお願いしている。消防の方に年に2回来て頂き避難訓練を行い入居者を交え消火訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会の時やケアプランの確認の際に、家族には随時説明し、家族にも理解して頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結びつけている。	バイタルチェック、顔色、体調の変化を職員は見逃さないように努めており、緊急時には管理者へ報告し往診、受診などに繋げている。		利用者の体調変化などがあった場合は、口頭での申し送りや、記録に詳しく残し全職員が状態の把握に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に服用している薬の処方箋をファイルに置いて、いつでも確認できるようにしている。薬の変更などがあれば全職員に申し送りしている。		薬の変更があった場合には、服用後の本人の状態に変化がないか注意して診るようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分管理、排便の確認を行い、個々の状態に合わせて下剤の調整をしている。食事でも乳製品や野菜類を多く摂っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	無理強いせず、確認や促しはしているが、ほぼ全員口腔ケアを行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。	食事量、飲量は毎日記録に残し水分が足りないときなどは補っている。		水分を取りたがらない人には、本人の嗜好に合わせるなどの工夫もしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルはあり、うがい、手洗いは毎日実行されており、疑いのある時は早期発見、早期対応に努めている。		ノロウイルス対策としてタオルではなくペーパータオルを使用している。インフルエンザの予防接種は全職員行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理器具は消毒しており、食材は毎日仕入れその日のうちに調理し、残り物は出さないと決めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	今年は玄関前にベンチを設置し、窓にはシール等を貼り、明るい雰囲気を作るように努力している。	○	玄関先の石段がコンクリートであるため、人工芝を敷いて明るいより明るい雰囲気を作りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂、ホールは西日が入る為、夕食時にはカーテンで光の加減を行っている。季節に合わせてホーム内を装飾している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	所々にソファを置き、好きな場所で過ごせるようにしている。		
83	○居心地のよく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらっている。家族の写真なども居室に飾るなどしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温、湿度計を置き確認して空気調整を行っているが、入居者はすぐに閉めてしまう為、その都度確認し対応している。		トイレは常に換気し、消臭剤を使用している。汚物入れも蓋付きの物を使用している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居住スペースが2Fの為、冬場外出できない場合には階段を利用して歩行訓練や体力作りをしている入居者もいる。		風呂場浴槽にも手摺を付けることを検討中であり早期に対応したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレのスリッパを履き替えてもらう為に床や壁に掲示物を貼ったり、スリッパにトイレ用と見えるように記入したりしている。	○	食事席などの混乱が見られる方には、本人が解りやすいように目立つ座布団を敷くなど対応している。掲示物の字を大きくするなどしていきたい。
87	○建物外回りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りは立地上難しいしスペースもなく交通量も激しい為、ホールで植物や生き物を世話している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	V サービスの成果に関する項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①ほぼ全ての利用者	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①毎日ある	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②利用者の2/3くらい	
92	利用者は、戸外の行きたいところへでかけている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②利用者の2/3くらい	・本人の健康、衛生、安全面を考えると柔軟な対応は出来ているが、本人にとっては安心できているかは判断できない時もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②家族の2/3くらい	・家族との話し合いや相談はよく行っているが、信頼関係までには至っていないと思われる。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
96	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている。	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③たまに	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②少しずつ増えている	・地域の人に参加ししてくれ、理解やアドバイスも頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらい ③職員の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての職員が	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③利用者の1/3くらいが	・満足しているかと聞かれると判断しかねる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらい ③家族等の1/3くらい ④ほとんどいない	②家族等の2/3くらいが	・信頼関係ができていない家族からは満足されている声が聞かれる。
<p>※ ○特に力を入れている点・アピールしたい点</p> <p>(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)</p>				